



脱ガラパゴス・世界で生き残るために

～運用体制の観点からの目録所在情報サービスの課題解決～

運用班

岡山大学
東北大学
京都大学
日本社会事業大学
神戸大学

大園 隼彦
佐々木 智穂
塩野 真弓
永野 智春
三谷 拓也

□NACISIS-CATの特徴

- ✓ 書誌の質・・・原綴、階層構造など
- ✓ DB全体の質・・・ユニークかつ豊富なデータ
(大学図書館→専門書・古書・洋書・古文書…)

ガラパゴス状態のままでもいいの？

世界の様々なデータベースとつながる
(リンクする、データを提供する)
⇒ **世界における研究の基盤へ**

□書誌作成の停滞期

✓ スキルのある担当者の不在

整理業務担当者は20年で半減 ⇒ 品質の維持が難しい

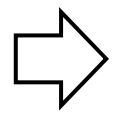
✓ 二極化（作る館、待つ館）

作る館は負担大、待つ館は他のことで手一杯？

**ユニークな資料の書誌がなかなか作れない
（Local にのみ作っている館も）**

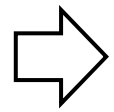
□「省力化」と「品質」を考える

✓ 省力化



スキルや余力のない担当者や図書館が、NC書誌の作成や品質維持に対応できるようになる

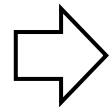
✓ 品質



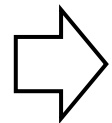
省力化できるところは省力化する。
すると、**ユニークな資料の書誌作成に力を注げる**

□ NC新規登録において資料を二分して考える

✓ MARCがある資料

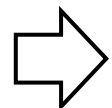


JP-MARCのデータを事前登録（NII） + 図書館コミュニケーションツールの活用による修正



海外MARCのデータは最初の所蔵館が変更なしに登録可能

✓ MARCがない資料

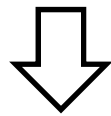


目録センター室構想 + 指定館の設定

- ※ 最初の所蔵館（書誌作成館）は書誌に対する責任を負わない
→ 新規書誌・所蔵登録にかかる負担を軽減

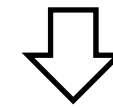
MARCがある資料

和資料 (JP-MARC)



NIIによる
自動事前登録

洋資料 (海外MARC)



最初の所蔵館が
MARCを流用入力

MARCの修正は任意 (必須ではない)
現物を所蔵している発見館は書誌を自由に修正可能

- 所蔵データ未登録の事前登録書誌は、ユーザー画面上非表示
ユーザーに所蔵館があると誤解されるため
- 洋資料は自動事前登録の対象外
対象となるMARCの種類が多く、重複書誌の問題が大きいため

「自由な書誌修正」実現のための コミュニケーションツール

□書誌調整機能の一例

✓**フラグ／コメント登録機能** ⇒ 書誌状態の明確化

「自信がありません、修正歓迎」「自信あり、修正するな」「この書誌は書きかけです」など

✓**画像登録機能** ⇒ 情報源の共有

✓**書誌更新履歴** ⇒ 過去の経緯の可視化

✓**RSS配信による書誌修正連絡** ⇒ 周知の手間削減

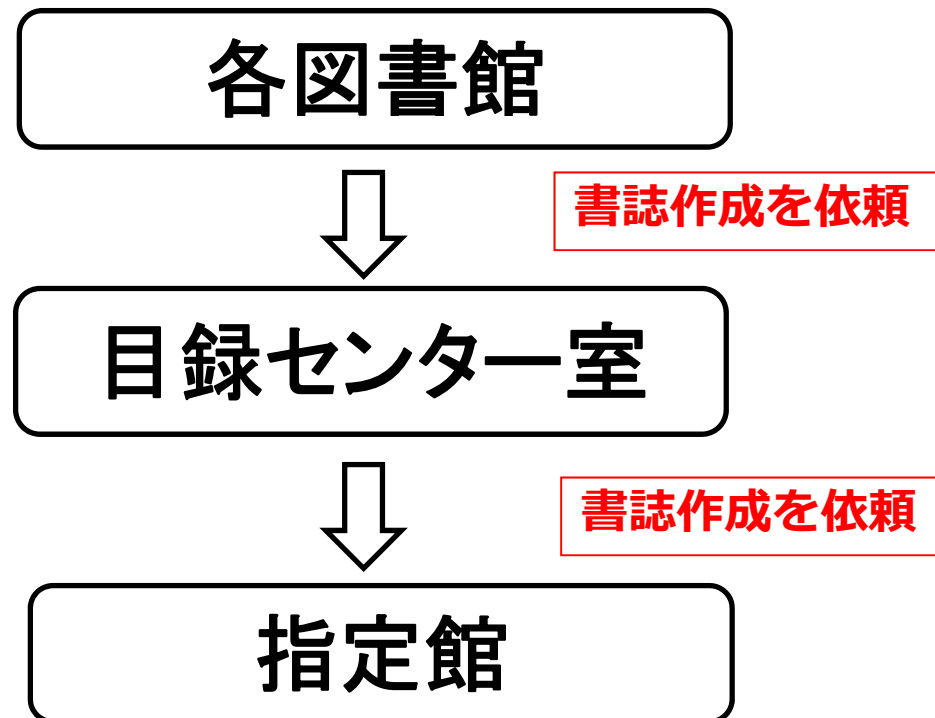
配信する修正通知項目は、タイトルや責任表示など、重要な情報に絞る

イメージは Wikipedia+Facebook+Yahoo!知恵袋

- 目録担当者の「つながり」を活用！
- 「NetCommons」をベースに自前開発
または 既存のソーシャルメディアを活用

基本的に各館でオリジナル書誌を作成

⇒どうしても単独では作成が困難な場合を想定して、新たな連携システムを構築



NACSIS加盟館とNIIによる共同運営

- NII内に設置（運営の便宜と人材育成を考慮して）
- 目録マネジメントに長けた前向きな人材を採用
- 実務研修生を募集し、次世代の目録担当者を養成
- 在宅サポーターの採用（書誌チェックや修正を依頼）

財源

各加盟館から運営費を徴収（定額制）

＋書誌作成依頼に応じた課金（従量制）

指定館の設定

特殊言語資料や古書など、目録センター室でも
処理しきれないものを依頼

⇒指定館には運営費の減免等を考慮する

コミュニケーションツールの活用

依頼相談の際に積極的に活用

⇒資料の情報源を画像データで送る…etc.
(時間の節約、資料保護にもつながる)

ポイント制の導入

目録センターや指定館に頼り過ぎない組織とするために

目録業務の結果を目に見える形にすることで、書誌作成の動機付けを行う

✓ポイント制の導入

個人ポイント or 組織ポイント

Ex.) オリジナル作成	5pt.
流用作成	3pt.
書誌修正	1pt.

個人ポイント制

⇒個人にポイントを付与する場合、新たに個人IDを用意する必要がある

□ 期待される効果

✓目録スキル評価の基準となる

✓ポイントに応じて資格認定

☆優秀な職員は「Cataloger of the Year」
として表彰

組織ポイント制

□ 期待される効果

- ✓ 組織の目録スキルの評価基準になる
(優秀なCatalogerが集まるかも)
- ✓ 組織の規模に応じて義務ポイントを設定し、各館間でポイントの取引を行う
- ✓ 業者がIDを持つことで、外注・委託の際に明確な評価基準となる

